

CORAL × Collaboration

コラルボ

02
2020.2



三鷹コラル情報誌『コラルボ』の思い

三鷹コラルの新しい取り組み『コラルボ』第2号をお届けいたします。タイトルの「コラルボ」は、ビル名の「コラル」と英語の「コラボレーション」(Collaboration: 協力や協業、協働)を足し合わせた言葉です。

三鷹コラルは、お客様をはじめとした地域の皆さま、団体・企業と連携・協働しながら、より魅力的な店づくりに取り組むとともに、このまちの商業を活性化し、三鷹駅前をより素敵な場所へと成長させていきたいと願っています。

この『コラルボ』を起点に、地域に新しいつながりや活動を、そしてそこから生まれる笑顔を増やしていけたら幸いです。

Contents

- コラル人 ^{ひと} うちの米うまいよ [地下1F] 店長 奈良貴子さん
- コラル×三鷹 まちとつながるインタビュー フリーライター 廣田恵介さん
- 知って、みて、みたく —— 三鷹・歴史探訪
- 三鷹コラルからのお知らせ

三鷹コラルでは、商業ビルの枠をこえて、地域で活躍する人々や地域団体、他の店舗や企業との連携に取り組んでいます。この企画では、コラルが出会った「地域の魅力的な人・団体・活動」をご紹介します。今回は、名作アニメの資料展開催の企画・コーディネーターなど、コラルの賑わいづくりにご協力くださっているフリーライターの廣田恵介さんにお話を伺いました。

Vol.2 廣田恵介さん
HIROTA Keisuke

フリーライター
三鷹市出身、1967年3月15日生まれ。日本大学芸術学部映画学科監督コース卒業。
株式会社サンライズなどでの映画企画業務を経て、アニメ・映画・ホビー分野のライターに。押井守や富野由悠季をはじめ、監督、演出家、プロデューサー、声優等へのインタビューやコラム記事の執筆多数。



自ら設置作業に携わる



資料展の告知パネル



廣田さんの近著『親子で楽しむかんたんプラモデル』

コンテンツで駅前を盛り上げたい
もともと三鷹生まれ三鷹育ちで、しばらく市外で暮らしていましたが、十数年前に三鷹に転居してきました。そのときに耳にしたのが、「駅前でジブリグッズを売れない」という話。いまや三鷹の代名詞となっている三鷹の森ジブリ美術館ですが、作品の管理が厳格なことでも有名で、近隣のお店が自由にグッズを扱うというわけはいかないのです。

駅前という日常の中で、新しい動きを
展示パネルの設置作業をしていると、通りすがりの方からの「懐かしい!」

続く第2弾は、市内にあるアニメ制作会社「びえろ」と連携しての「三鷹ゆかりのアニメ『魔法の天使クリィミーマミ』ビジュアル展」です。この企画で地元と接点が増えてきたことを、びえろ側もとても喜んでくれて、第4弾の「ニルスのふしぎな旅」グラフィック展」につながりました。これは、びえろの設立40周年記念事業にも位置づけられました。
また、第3弾の「『この世界の片隅に』資料展」では、作品の舞台である広島PRに取り組んでいる市民の方と連携し、広島県東京事務所さんによる物産展を併催。多くのお客さんと賑わいました。

そこで、アニメ業界に関わる身として、ジブリ以外のコンテンツで駅前を盛り上げることもできるのではないかと考えました。それを知人の市議会議員さんに相談してみたところ、三鷹コラルさんを紹介いただいたのが緑の始まりです。
コラルを舞台に、アニメの資料展を開催
そうして最初に実現したのが、2017年4月に開催した、三鷹在住の漫画家・宮尾岳さんの複製原画展です。このときは、書店さんとコラボし、サイン入り書籍を限定50部用意したところ、すぐに完売したのが印象に残っています。

本業もあり、次の企画はまだ固まっています。地元の文豪ゆかりの作品を取り上げたり、近隣の複数の制作会社や商店街と連携した駅前全体での展開など、いくつか案を練っているところです。
ここを起点として、近隣の皆さんが今まで知らなかった新しい作品に出会える、作品の側もこれまでのファンと違う方々と出会える、そんな面白い流れを作っていけたらと考えています。

楽しい企画
歓迎です♪
廣田さんのように、三鷹コラルと連携してまちを面白くしていきたいという方、ぜひコラル編集部にご一報ください!

第2回 びと
コラル人

三鷹コラルには、商品へのこだわりやお客様への熱い思いを持ったスタッフが揃っています。そんな個性あふれる「コラル人(びと)」の声を届けさせていただきます。第2回は地下1F「うちの米うまいよ」の奈良貴子店長です。



Interview
うちの米うまいよ 店長
奈良 貴子さん
NARA Takako

すべてにおいて「本物」にこだわりたい!
お店を代表する商品は、店名の通りお米です。よくある「契約農家の顔の見えるお米」ではありません。当店オーナーの明平正が長年かけて自ら地方を回り、無農薬・無化学肥料・無施肥の「うち米農法」に賛同してくれる農

家さんを見出し、土作りから指導して、一緒に作り上げてきたお米なんです。また、お米以外にも、どの食品も「本物」を揃えています。私がお店の柱だと考えているのは「ぬか漬け」「納豆」「菜膳キムチ」という3つの発酵食品です。いずれも当店だけのオリジナル商品です。ぬか漬けは、無農薬の米ぬかと塩と水の力だけで漬け込み、無農薬野菜本来の美味しさを最大限に引き出しています。納豆は、農薬・化学肥料不使用のわら筒に入れ、在来の天然菌で時間をかけて発酵させたものです。キムチも添加物や砂糖を一切使わず、本場韓国の伝統的な製法で熟成させています。

三鷹から全国へ
健康で幸せな方を増やしたい

どうしてそこまで本物にこだわるのかと言えば、食を通してお客様に健康に、そして幸せになっていただくことが、このお店の理念だからです。先ほど私の原体験をお話ししましたが、そもそもオーナーがこのお店を起業されたのも、ご家族の健康への問題意識からでした。実際に、お勧めした食品や食生活をとり入れられたお客様が、目に見えて変化し、日々生き生きと過ごされているのを見ると、もっと頑張ろうという意欲が湧いていきます。
米消費の拡大を目指し、CDデビュー
ただ、社会全体で見れば、お米の消費落ち込みや生活習慣病の増加は進む一方で、私たちの思いをもっと広めてい



奈良さん自慢の商品たち♪ ぜひ店頭で!

地下1F うちの米うまいよ 三鷹店
TEL 0422-43-0701 営業時間: 10:00~21:00

イベント情報は、店頭またはWEBサイト、Facebookページにて



WEBサイト



Facebook

噛んだ途端、「体が欲する」とはまさにこのことという感覚に見舞われたぬか漬けや菜膳キムチ、皆さんもぜひご実感ください!(編集部)

駅前とともに歩んで 手記 三鷹の今昔 その2 中央線の前の交通機関

三鷹コラル商店会の会員が、駅前に生まれ育ちその歴史とともに歩んで来られた先輩方から、手記の寄託を受けました。先輩方が先人から伝え聞きあるいは調べられた地元の歴史、実際に見聞された昭和中期以降の出来事などについて、次世代に伝えたいとの思いで70代・80代を過ぎてからまとめられた貴重なメモです。寄託を受けた会員を通して、本誌にてご紹介していきます。

今年三鷹駅開業90周年。そこで、今回と次回は、三鷹駅に関する手記をご紹介します

江戸時代のすぐ後、明治2(1869)年に、東京と三多摩をつなぐ交通機関として、青梅街道の新宿・田無間に乗合馬車が開通した。明治3(1870)年には、玉川上水に東京と三多摩の物資を運ぶ船が就航したが、飲み水のための水が汚れるとの理由のため、2年で禁止となった。

明治17(1884)年9月、玉川上水土手の草刈りをしていた村民たちが、うっかり若干の立木を伐採してしまった。これを土木課にとがめられ、罰金55円12銭を言い渡された。そこで村民たちは、明治22(1889)年になって「土手の上に約15mおきに桜の木を植え、土手の崩れを防ぎ、また良い眺めをつくるので、立ち木の代金は帳消しにしていただきたい」と願い出て、聞き届けられた。このとき植えられた桜が、今も毎年春に美しく咲いている。

その後、東京・八王子間をつなぐ鉄道が構想された。はじめ、甲州街道または青梅街道沿いに鉄道が敷設される計画であったが、「汽車の吐き出す煙が、養蚕のための桑の葉に影響する」「火の粉が茅葺屋根に飛んで火事になる」「宿場の旅客が奪われる」といった理由で反対が多かった。当時、養蚕による絹糸は、農家にとって大きな現金収入だった。そこで、三鷹の新川・大沢を通る計画も出たが、農民の不安はいずれも同じであって、ここでも反対を受けた。

そのため、2つの街道の真ん中で、三鷹村の北外れの現在の場所に敷設されることになった。明治22年4月に、新宿・立川間が開通した。甲斐国と武蔵国の頭文字を取って「甲武鉄道」と呼ばれ、武蔵野原野を一直線に結ぶ路線となった。八王子までの開通は、多摩川を渡る日野橋の鉄橋工事のため、その年の8月になった。

甲武鉄道の建設にあたって、新宿と立川のほぼ中央の地点、三鷹の西側の上連雀に電車庫を作ることになった。この決定に対して、境村の秋本喜七は、村の発展のために駅の誘致を考えた。彼は駅の敷地用地として、私有地を無償提供して鉄道建設に協力することを申し入れた。秋元喜七は、下連雀の渡邊萬助から養子に入った人物である。

この境駅と立川駅の間にも停車場がつくられると聞き、国分寺の小柳九一郎は、境の秋本氏の活動を見てか、私有地2,000坪を駅の用地として無償提供した。湧水が出るような高低差があり、駅にはあまり好ましくない地形であったが、誘致に成功しそこに国分寺駅ができた。

そのほか新宿駅と境駅の間には中野駅ができ、明治22年4月11日、甲武鉄道は「新宿・中野・境・国分寺・立川」の5駅によって発足した。

運行は1日に上り下り各4本。新宿から中野までの乗車賃は、下等3銭、中等6銭、上等9銭だった。当時の時速は30キロ程度。自転車より少し速い程度である。

私の父は、立川の府立二中に通学していた。列車の本数が少ないため、暗いうちから使用人に提灯をもたせて境駅に通っていたという話をしていた。当時は、吉祥寺駅(明治32(1899)年12月開設)はまだできておらず、三鷹村の人は境駅を利用していた。

橋本福雄氏よりご寄稿



▲ 戦前(1936年頃)の三鷹駅周辺
【出典：国土地理院ウェブサイト(地理院地図|空中写真：1936年頃)より】

※ 個人の手記であり、原文を尊重して掲載しております。ただし、編集部にて一部表記の編集を行っています。

三鷹コラル営業のご案内

【営業時間】 B1F-3F ショップ 10:00~21:00
4F グルメ処 11:00~23:30

※一部の店舗は除く

【定休日】 1月1日、4月と9月の第二水曜日

三鷹コラル公式アプリ
ご利用ください →



2020年2月29日 第2号
発行：三鷹コラル TEL 0422-41-0105
制作：BUN-SHIN 株式会社 文伸
TEL 0422-60-2211

イベント情報 | 今年もやります! コラル商店会「第10回ワンコイン商店街」

2020年4月26日(日) 10:00~17:00 (4階グルメ処は11:00~)

コラル全館ワンコイン(百円、五百円)のお得な商品・サービス満載! ご家族向けの楽しいイベントも実施します。

駐車料金サービスのご案内 |

三鷹コラルでは、**地下2階の駐車場**や、**タイムズ提携駐車場**(近隣の駐車場)で、以下の駐車料金サービスを行っています。店舗ご利用時には駐車券をご提示下さい。三鷹コラル館内で1店舗でのお買い上げ、

2,000円以上のご利用で 30分 無料 **4,000円以上のご利用で 60分 無料**

1回のお買い上げで最大60分が限度となります / テナント間のレシートの合算は行いません / 当日分のレシートのみが対象となります / 3階の啓天堂書店・5階の三鷹市美術ギャラリーでは当サービスは行っておりません / 4階のレストラン街においては、10,000円以上のご利用で1時間30分の無料券を発行いたします / 都合により、一部情報が変更になる場合がございますので、ご了承下さい。



本誌のご感想をぜひお寄せください!
✉ coral@bun-shin.co.jp (編集部)

